



芝山小だより



1月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

3学期は0学期

校長 寺井 俊敬

新春のお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

さあ、寅年が始まりました。干支(えと)は、本来「十干十二支(じっかんじゅうにし)」というそうで、2022年は、壬寅(みずのえとら)というのだそうです。ある新聞によると、壬寅は、「(2022年は)困難を乗り越え、新しいものが生じる縁起の良い年回り」だそうです。2022年のスタートも、新型コロナウイルスの影響により、まだまだご不安なことも多いかと存じますが、本年も感染防止に努めながら、少しでもよい教育活動ができるよう取り組んでまいります。皆でコロナを克服する歩みの中から、新たなことに立ち上がり、成長していきたいと思えます。

さて、よく「3学期は0学期」と言われることがあります。「1年生の3学期は2年生の0学期」「6年生の3学期は中学校1年生の0学期」このような言い方です。どの学期も大切な意味があります。そのうちで最も短い3学期ですが、1つはまとめの学期であること、もう1つは次年度への助走期間の学期の意味があります。

【まとめの学期について】

小学生の6年間は、毎年身も心も大きく成長します。もちろん子供たちの成長は連続です。学年が変わったからといって、これまでできなかったことが突然できるようになることはまれです。だからこそ成長を確認する上で、時折、子供たちの様子をしっかりと見て把握し、復習問題を与えたり、生活習慣を子供たち自身に見直させたりする必要があります。3学期はそのよいタイミングです。子供たちはしばらくすると学んだことを忘れてしまうことがあります。機会を作って復習を繰り返すことで、定着の度合いが高まります。その学年で学んだことはその学年で確実に身に付けさせる。そのことが勉強を苦手にならないポイントです。また、心の成長を認め励ましてほしいと思えます。この1年、子供たちは様々な経験をしたはずで、例えば、思い返せば、1年前は宿題を言われないとやらなかった子供が、今は毎日声を掛けなくともするのであれば、これは大きな成長です。毎日子供たちを見ていると成長したことに気が付かないことがあります。この1年を振り返り、成長した部分を大いに認め励まし、自信をもたせてあげてください。それが次の成長への原動力になります。

【次年度への助走期間について】

例えば中学に進学するとなると、子供たちは期待もありますが、不安な気持ちにもなります。また、クラス替えを心配しているかもしれません。そんなときに、不安な気持ちを親として受け止めたり、励ましたりして前向きな気持ちにしてあげると4月にスムーズなスタートが切れます。また、見通しをもたせることも大切です。学年が変わると生活リズムが変わることもあります。少しずつ新しい生活をイメージさせておくと安心です。

お子様の様子に応じてまとめの学期として、次年度の助走期間として、芝山小学校教職員一同、今年も頑張りますので、有意義な3(0)学期になるよう、どうぞ今学期もお力をお貸しください。